

# 未来の希望が輝く、教育基本講座

## 第32回教育基礎講座へのお誘い

### 広島県歴史教育者協議会広島支部

私たち広島歴教協も参加する、広島市民間教育サークル会議（広島市民教）主催の「教育基礎講座」が第32回を数えることになりました。

「教育基礎講座」は、広島の平和と民主主義、そして何より子どもたちの健やかな成長を保障する教育を作り、支える大きな力になってきたと自負しております。

今年も「教育基礎講座」は【子どもたちの未来を拓く教育の創造を】をテーマに行います。記念講演には小野田正利さん（大阪大学人間科学研究科教授）をお迎えすることができました。テーマは「学校と保護者のいい関係づくり～学校への無理難題要求のウラにあるもの」。小野田さんは「モンスターペアレント」と呼ぶ風潮を憂慮され、そのウラ側には保護者としての切ない思いが含まれていることをくみ取り、協同の教育を営むことを提唱されておられます。保護者自身が競争社会の中で、格差付けされ、選別されまいと疲れている。そのような保護者と良い関係を結ぶ方法を学び合いましょう。

社会科の講座には、弁護士の平田かおりさん（広島）をお招きします。平田さんは教員の過労死訴訟やハケン切りの最前線で労働者の味方として活躍されています。「ネットカフェ難民」「ワーキングプア」「ハケン切り」が小中学生の中でも一般語として使われる今、人が働くことの意味をもう一度とらえ直して授業に活かしませんか。働くことのすばらしさを子どもに伝えられる授業を作り上げたいと思います。

大企業のリストラと闘う労働者と共に歩み、悩んでおられる平田先生から、人間らしく生きる権利を教える大切なコトを教えてください。

憲法を守り、教育に生かしていこうとしておられる皆様が集うことで、日々の教育実践に希望と確信を持てる「第32回教育基礎講座」になりますことを願い、多くの方のご参加をお願いし、お誘い申し上げます。

期日 2009年6月13日（土曜日）（教科別 受付 13:00～）

6月14日（日曜日）（記念講演受付 8:30～開演 9:00・問題別 13:30～）

会場 広島市内各会場 社会科は 中区民文化センター会議室 A

記念講演は 広島市立本川小学校体育館

参加費 3000円

申し込み 広島市教職員組合（全教）（082）264-7850

または広島歴教協 HP まで <http://homepage2.nifty.com/sa-nin/>

### 3. 社会

# 人間らしく働ける社会を子どもたちに



人権としての労働をどう教えるか

講師：平田かおり さん

(弁護士・広島)

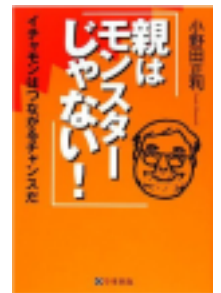
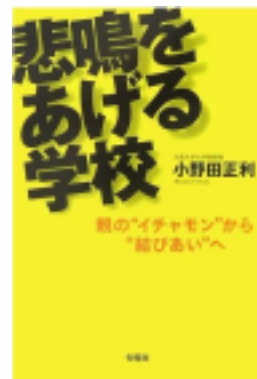
8時間労働、残業手当、有給休暇、不当解雇、労働組合……大切なことを教えずに、子どもたちを社会へ送り出していないませんか？弱者をイジめる社会から、子どもたちは何を学んでいるのか。普通の人たちの、普通の連帯が、働くことと生きることを支えている、その確信を共有し、子どもたちが希望をもてる授業作りを！！

**ハケン切り・過労死問題と闘う平田弁護士といっしょに労働の学習を考えよう！**

## 記念講演



大阪大学大学院人間科学研究科教授 小野田正利さん



私は、保護者から学校に向けて出される要求を、「要望(向き合うべき課題)」「苦情」「イチャモン(無理難題要求)」の3段階に分けて分析、整理しています。「要望」とは、学校がやるべきことに対するまっとうな要求です。「苦情」とは学校がある程度は対応すべき要求で、学校にもどうにもできない要求が「イチャモン」です。先生たちもまずはさまざまな要求を整理されるといいと思います。

もっとも重要なのは、先生たちにすれば「イチャモン」にしか思えない要求も切り捨てず、隠された本音を読み取る姿勢をもつことです。数々の「イチャモン」を分析してわかってきたのは、「往々にして表に見える現象とは違うところに本音がある」ということでした。「ウチの子は女の先生とは合わないから担任を変えろ」「ウチの子とけんかをした同級生を休ませろ」など、そのまま受け取れば途方に暮れるような要求があります。けれど保護者とじっくり話していると、実は「最近、子どもが荒れ気味で不安で仕方なかった」「先生が我が子ちゃんと見てくれているのか不安だった」「親しく話ができる親のつながりがなくて寂しかった」といった“本当のところ”が表れてくるのです。顔を合わせて話をするだけで、電話での剣幕が嘘のように収まることも少なくありません。たくさんの業務を抱えている先生たちにとってはそうした時間をつくるのも大変でしょうが、こじれて修復不可能になることに比べれば、やってみる価値はあります。

寂しい、かまってほしいという気持ちを素直に出せない、むしろ寂しいからこそ突っかかる、怒るという形でコミュニケーションをとることがあることや、保護者自身がストレスや不安を抱えていることを頭に入れておいてほしいですね。そして、話を聞きながら「怒りの源」がどこにあるかを考えるんです。場合によっては医療や福祉の力が必要なこともあるでしょう。決して一人で抱え込まないことです。トラブルに発展した場合はもちろんですが、それ以前の段階でも保護者との対応について何らかの不安を感じたら遠慮なく周囲の先生たちに相談することです。何もかも自分で解決しなければならぬと背負い込んではいけません。